

今年の12月4日で、中村哲医師がなくなって丸2年になりました。今もペシャワール会は、中村哲医師の意思を継ぎ、活動を続けています。

1983年中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されたのが、ペシャワール会です。

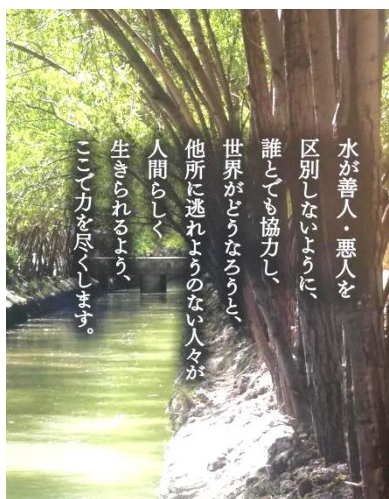
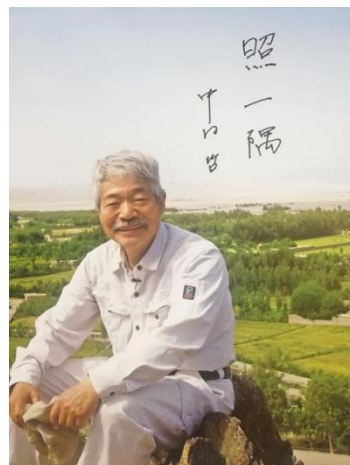
84年パキスタンのペシャワール・ミッション病院に赴任。

86年からアフガニスタン難民の診療も本格的に開始し、過疎地に10か所の診療所を設け、ハンセン病や貧困層の診療に取り組み、年間50,000名を診療していました。

百の診療所よりも1本の用水路を！

2000年、干ばつがアフガニスタン全土で一挙に深刻化。水不足により子どもの栄養失調、消化管感染症が増加し、清潔な飲み水の確保が急務となり、井戸掘りを開始しました。一方、干ばつと戦乱からの難民が集中していた首都カブールで、27万人に小麦粉と食用油を緊急配給しました。

2002年、大干ばつから農村復興を目指す「緑の大地計画」を立案し、2003年クナル河から取水する用水路建設に着工。そして2010年3月ガンベリ砂漠まで全長25kmが開通し、砂漠を緑の大地に蘇えらせ、多くの人の命を救いました。



「彼らの望みはただ二つ。三度三度のご飯が食べられること、家族一緒に故郷で暮らせること、それだけだ＝中村哲＝」

仕事があって、お腹いっぱい食べられたら、だれも戦争になど行かない。現地の戦士が銃をシャベルに持ち替えて用水路建設し、開通し時の喜び、そして農業が出来るようになった時の笑顔は、なにものにも代え難いと、写真や映像からでも見て取れます。

こんな素晴らしい平和活動を応援せずにはおられず、オーガニック映画祭で取り上げ、また2020年2月には追悼上映会も開催しました。以後毎年開催し、哲さんがいなくなった後も、支援を続けようと声を掛け合

ったのですが、集まるのが難しくなり出来ていません。でもペシャワール会は、この混乱の中でも事業を再開しています。現地での活動の様子は、ペシャワール会の会報（会員に年4回郵送）やホームページで見ることが出来ますので、ぜひご覧頂けたらと思います。武力では何も解決しないということを、哲さんは教えてくれました。